

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		地域生活支援事業所 ほほえみ 放課後等デイサービス		公表日		R8 年 2月 25日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度途中までは2F地域交流室を活用し、肢体不自由児と地域の児童を分けて活動等に取り組んでいた。職員数に変化があり、また別室空間になる事で職員が孤立、ヘルプが出しにくいという事が課題になり、現在は同じ活動室で活動に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ活動室で地域の児童も一緒に過ごすにはスペースが狭く感じてしまう。</li> <li>・地域の児童と支援学校の生徒では身体と異なる為、遊び方が違うことで広さが足りない。</li> <li>・様々な道具を活用して活動内容を工夫しているが収納に限りがあり、活動室内がうまく整理が出来ていない。</li> <li>・曜日によって利用児数に変動がある為、空間を分けて過ごすなどの工夫が必要である。肢体不自由と地域の児童をうまく分け安全に過ごしたい。</li> </ul>		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準人員は満たしている。</li> <li>・各学校へのお迎え等は人員が足りないため他部署からの応援でお迎えを行っている。</li> <li>・曜日によっては、活動支援についても他部署からの応援をもらい安全に過ごし、情緒面のケアや学習支援ができるよう工夫をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準人員としては基準を満たしているが、肢体不自由児、地域の児童を両方受け入れるにあたっては支援者が足りないと感じている。情緒面のケア、学習支援等、必要な支援を行えない場面もある。</li> <li>・地域の児童を多く受け入れる日は部屋を分けたいが、今の職員数では分けることが出来ない。同じ活動室内で空間を分けて過ごすことが出来るよう支援していきたい。</li> <li>・支援学校、地域の学校と送迎箇所が多く、常に他から応援をもらいながら送迎実施をしている。新年度に向けて、送迎時間などを確認し、スムーズなお迎えが出来るよう調整していきたい。</li> </ul>		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの学習机などを準備している。</li> <li>・隣同士が近くなり宿題等の集中が難しいケースもある為、パーテーションや仕切りなどを準備して児童に分かりやすく示していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元々、肢体不自由児対応なのでバリアフリー化はされているが、地域の児童が過ごすには分かりにくい構造である。</li> <li>・入口、靴箱等脱ぐ場所が分かりにくいいため、入口等を整備して新たな靴箱を設置していきたい。</li> </ul>		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に合わせて机や椅子を移動し、広くスペースを取るよう工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がは走ってしまう時は机やベッドがあり危ないが、休憩スペースにベッドは必要である。</li> <li>・スペースが足りない。</li> </ul>		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の出勤状況によるので難しい。</li> <li>・個別の部屋や空間は準備されていないため、個別での対応が難しい空間となっている。</li> <li>・空間を分けるための仕切り等の工夫を進めていく。</li> </ul>		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の打合せ、翌日の振り返りが出来ている。出勤職員で意見交換、情報共有が出来ている。</li> <li>・必要に応じて面談内容等を現場職員へ伝達している。</li> </ul>			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価表についての会議を開催し、頂いた意見に対しての改善案を考えている。</li> </ul>			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の打ちあわせ、月一回の部会等で機会を作り、必要に応じて適宜相談ができる体制を取っている。</li> </ul>			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年に第三者評価を実施している。</li> </ul>			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に数回ではあるが、法人が主催の研修等への参加。</li> <li>・事業所が申し込む、外部研修等への参加がある。</li> </ul>			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成されている。</li> </ul>			

適切な支援の提供	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・個々に対してのアセスメント、面談等の実施を行うことが出来ている。	・ニーズや課題に対して適切な支援が計画され、実施することが出来ているが、内容に沿っているかなど不透明な部分もある為、確認をしながら統一した支援が出来るよう努めていく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・個別支援会議を持って計画書の作成に取り掛かっている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・個別に計画に沿っての支援が確実に実施されているのか、確認をしながら支援を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・5領域の内容が確認できるようなアセスメントシートを活用し、面談等で把握している。また、利用児送り出し時にはその日の引継ぎを行いながら確認している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・必要な課題について項目ごとに計画を立てている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・案を基に活動内容について話し合い、翌月の活動内容を事前に話し合いにて内容を確定している。また必要に応じて内容変更しながら実施している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・5領域をイメージした活動、4つの基本活動が含まれたものを毎月作成し、固定にはならないよう曜日等でばらつきを持たせている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・当日の朝にその日の業務の確認、昨日の振り返りを実施し、業務では送迎や活動担当など役割を確認している。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・支援終了時に実施は出来ていないが適宜職員同士声を掛けながら伝達事項や情報共有はその日で把握することが出来るよう心がけている。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・日々の記録を5領域の項目に分けて記録するようにしている。タイムリーな事項については共有し、支援の方向性や環境調整など対応に努めている。		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・相談支援事業所と連携しながら面談を実施し、支援の確認、ニーズの把握をしている。		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		・様々な活動を計画している。	・複数がうまく組み合わせられているかは確認が必要である。また、現場職員と相互に確認しながら取り組んでいく。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・児童に決めてもらう場面では選択しやすいように道具を準備をして工夫している。		
	関係機関や保護	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・現場職員や児発管が参加している。	
		27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・必要に応じて支援学校での生徒の見学等しながら支援方法の把握に努めている。	
		28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・学校からの週報を写し、翌週の下校時間など確認を行うようにしている。また、保護者への確認を行いながら漏れの内容に努めている。	
		29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・必要な内容においては情報を共有しながら切れ目のない支援ができるよう心がけている。	・情報共有はするが、児童発達～放デイへ移行する中で環境の変化や、周りの交友関係の変化で同じような支援を継続できないこともしばしば存在する。
		30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		・支援学校側からの移行支援会議に参加している。	

者との連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		・繋がりが無いため、センターとの連携も視野に入れていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	○		・現在、支援学校からの生徒と、地域の小学校からの生徒が同じ空間で過ごしている。そのため、日々の交流がある。	
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		○		・参加したことは無し。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		利用児保護者お迎え時にその日の活動の様子や、支援中での出来事など良いことも悪いことも伝えるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・9月、11月と家族向けへの研修等を行った。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・利用契約時に契約内容、重要事項説明書の説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・面談等を通して保護者からのご意見、希望を確認し、把握する機会を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・保護者への説明と同意を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		事業所でのことや家庭での様子を踏まえて相談等を受ける体制を取っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		・保護者会を年に2回行っている。兄弟児が参加することのできるイベントも開催した。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・ヒヤリハット・インシデント・事故等については報告体制、改善に迅速に努めている。委員会もあり、各部署の状況も把握が出来る。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・さくら便り、活動計画、等必要に応じて発信している。Facebookでの記事の投稿も行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・同意書の内容を確認してもらい、チェック、サインをもらい広報誌等では参考にしながら確実に運用している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・地域住民を事業所のイベント等に招待したことはないが、事業所として今後検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・訓練を実施しているが、放デイでは利用時間に実施されることが少ない為、実施があった時には利用時間に確認ができるよう取り組んでいく。	・職員としては実施されているため、把握が出来ている。今後、家族等へも実施していることを認知してもらえよう知らせていく。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・行うことが出来ている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・初回アセスメントで把握している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・現在、アレルギー対象者はいない。他部署では把握がされている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・行われている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・利用契約時に安全計画というものがあること、安全のために実施していることなどの説明をしている。	

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・委員会があり、各部署での報告、改善に向けての取り組み等把握している。また、全体職員会で全体に向けて報告している。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待防止委員会が設置されており、月に一回振り返りシートにて振り返り、状況の把握をしている。委員会では意見を交わし、再発防止に努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・3カ月に一回、身体拘束ケースがないか確認を行っている。現在、身体拘束の同意書を受けているケースは無い。	